＝　普　及　情　報　＝

Ｎｏ．13

令和８年１１月５日

東部農林水産振興センター雲南事務所農業部

標題	「つぶきらり」と「コシヒカリ」の食べ比べ会を開催 ～新品種を契機とした新たな協議会連携へ～

（ダイジェスト）

「加茂町集落営農ネットワーク協議会」では、島根県育成の水稲新品種「つぶきらり」の実証栽培を契機とした新たな連携活動を提案しており、その一環として本品種と「コシヒカリ」の食べ比べ会を行いました。参加者の多くが「つぶきらり」の方が美味しいと評価し、食味の良さを認識してもらうことができました。また、本品種の特性を最大限に引き出す栽培技術の確立に向けた建設的な意見も多く聞かれ、同協議会での新たな取組に向けた気運醸成にも繋がりました。

「加茂町集落営農ネットワーク協議会」は、雲南市加茂町内の集落営農組織（4 法人と 1 任意組合）で構成される組織で、これまでの活動は、マニュアスプレッダーの共同所有、座学での研修や情報交換が中心でした。しかし、平坦部に位置する当地域の米づくりは、近年の夏期異常高温による「コシヒカリ」一等米比率低下への対応が喫緊の課題となっており、農業部では同協議会構成法人に本県育成で高温耐性のある新品種「つぶきらり」実証ほを設置し、研修会等を通じて「つぶきらり」の特徴をより知ってもらう機会を設け、同協議会全体で品質の高い米づくりに向かう気運づくりを行いました。

こうしたなか、これまでの研修会で農業部から「コシヒカリ」から「つぶきらり」への転換を検討するためにこの 2 品種の食べ比べを提案しており、同協議会構成組織の組合員及び構成員からも「つぶきらり」を食べてみたいとの要望が寄せられたことから、同協議会と協力して「コシヒカリ」との食べ比べ会を企画開催しました。

食べ比べの結果、参加者 25 名の約 8 割が「つぶきらり」の方が美味しいと評価し、食味面での優位性を実感してもらうことができました。

また、今年度の実証結果は、当初想定した収量・品質の目標に至らなかったため、次年度以降の同協議会での新たな取組として、収量・品質向上のための勉強会開催を提案しました。

期待通りの実証結果が得られず、参加者の栽培意欲低下が心配されましたが、この提案に対し、「収量向上のためには追肥が必要だと思う」「継続的に栽培して収量・品質等を確認していきたい」「品種転換を行うために栽培体系を確立していきたい」などの賛同意見が多く聞かれ、構成組織が連携して「つぶきらり」栽培に取り組む気運の高まりがみられました。

さらに、アンケートでは、過半の参加者に早期の本格栽培開始を希望する意向があり、本品種への期待の高さが認められました。

農業部では、新たに動き出す勉強会の活動支援などを通じ、本品種の特性を最大限に引き出す栽培技術の早期確立を図るとともに、地域全体としての取組となるように同協議会内での連携体制づくりについての提案も行っていきます。



←写真１　試食会の様子

写真２　試食用サンプル　→
左：「つぶきらり」
右：「コシヒカリ」



3　担当者　雲南地域振興第二課　中尾尚太　TEL0854-42-9683